

令和6年1定 予算特別委員会(総合政策部所管) 開催状況

開催年月日 令和6年3月13日

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 地方交通について</p> <p>(一) JR北海道の運行について</p> <p>小樽札幌間のJRは、通勤通学のみならず観光客も多く利用する路線の一つです。しかし、運休になる事態がたびたび起きております。今年1月24日の夜から高波の影響で運休、再開は27日朝となっているんですけども、25日お昼過ぎには駅前の高速バス乗り場に札幌に行こうとする旅行客が数百メートルも雪の中を並ぶ事態になってしまいました。2月3日の夕方には、小樽築港と朝里の間で、ラッセル車のエンジン不具合が起きて、4日朝まで全面運休、高速バスが増便しましたけれども、札幌雪まつりの前日ということで、小樽に日帰り観光が多かったためか移動も宿泊もできなかった旅行客の中には、小樽駅で一晩を明かすということにもなりました。</p> <p>1 トラブルによる遅延や運休などの報告について</p> <p>冬場の悪天候による運行の乱れ、運休は一定程度起こるものと思います。地元の通勤客とか、通学の場合は、前もって準備をしている場合もあるんですけども、今観光客が多く来ておまして、大変困っている状況じゃないかという風に思います。北海道は観光客誘致と言いますが、的確な移動の手段を提供できないということであれば、北海道のイメージも悪くなるんじゃないかなという風に思います。</p> <p>北海道は黄色線区を対象にアクションプランを策定しJRの利用促進を図っているわけですけども、収益が多い路線にこのような不具合や事故などがあれば、大きく収益は下がります。こうしたトラブルによる遅延や運休などについて、どのように報告を受けているのか伺います。</p> <p>2 道の認識について</p> <p>少なくともラッセル車など設備等の不具合によって正常な運行ができないという事態は、あってはならないという風に思うんです。安全を優先するJRとして、こうしたことがないようにするべきであるという風に思いますけれども道の、所見を伺います。</p> <p>是非お願いしたいんですけどももう一つ、3月4日の朝だと思うんですけども、この日はとっても天気が良かったんです。通常通り駅に行きましたら、車輪の凍結によって遅延が起こっておりました。天気が良かったので皆さんそういったことを想定していなくて、私が利用する駅の待合室がいっぱいになるくらい、30分くらい遅延したかと思うのですが、朝の通勤時間帯ということだったので、本当に残念だなという風に思いながら、こういった設備についての不具合については極力なくしていただきたいという風に強く思います。</p>	<p>【鉄道企画担当課長】</p> <p>トラブルによる運休などについてでございますが、道では、JR北海道の列車運行に関しまして、大雨・大雪などの影響のほか、車両や鉄道施設の不具合といったことに起因する遅れや運休が発生した場合には、JRからその発生原因や列車運行への影響等の情報を入手しているほか、必要に応じて、利用者への対応状況などについて確認を行っております。</p> <p>【鉄道企画担当課長】</p> <p>JR北海道の対応についてでございますが、JR北海道は、本道の交通ネットワークの基幹的な役割を担っておりますので、道としては、引き続き、JR北海道に対しまして、トラブルの再発防止や安全対策の徹底などを求めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) バス運転手不足について</p> <p>1 合同就職相談会について 次に、バス運転手不足についてお聞きしていきます。 北海道のバス運転手確保策として、全道で合同就職相談会を開催していると承知しておりますが、これまでの開催回数と参加人数、それから採用人数をお答えください。</p> <p>2 運輸人材確保推進事業について 運輸人材確保推進事業についてですが、新年度予算でこの運輸人材確保推進事業は前年度から増額されております。新年度、これまでの取組に加え、新たに予定されているものなど、教えてください。</p> <p>3 今後の道の対応について 先ほどもお聞きした実績を見ると、期待通りの結果が出ていないと思います。 運転手確保に向けては、ドライバーの収入を上げるなど処遇改善につながる北海道独自の取り組みも必要と思いますが、今後の道の対応を伺います。</p> <p>【指摘】 今、道外PRなどの取組ということもありました。これまでの中で、移住施策なども合わせてという議論もあったかと思えます。更なる工夫を期待をするということを指摘して、次の質問に参ります。</p> <p>(三) 並行在来線のバス転換について</p> <p>1 次回後志ブロック会議の開催予定について 昨年5月に実施された北海道新幹線並行在来線対策協議会第16回後志ブロック会議において、バス転換後のバス運行について、バス事業者に協力を求めていくと確認をしています。昨年11月には幹事会が行われたと承知しておりますが、現時点で、次回の後志ブロック会議の予</p>	<p>【地域交通担当課長】 合同就職相談会についてでございますが、道では、平成29年度からバス事業者や北海道バス協会などと連携して、合同就職相談会を開催してきたところであり、これまでの実績としては、全道各地で27回開催し、参加人数は約1,200人、採用人数は77人となっております。</p> <p>【地域交通担当課長】 人材確保に係る取組についてでございますが、道ではこれまで、北海道バス協会などと連携して、合同就職相談会の開催や、大型二種免許の取得費用に対する助成を行いますとともに、今年度は、道外プロモーション活動の実施や、全国のバス事業者が集う就職イベントへの出展など取組を強化したところであります。 新年度におきましては、各種広報媒体を活用した運転手の魅力発信や道内外におけますPRの更なる拡充など、取組の充実を図ってまいるとともに、若年者向けPRに取り組むなど、交通事業者はもとより、市町村など地域の関係者の皆様とより連携しながら、運転手の確保に向けた取組を進めてまいると考えてございます。</p> <p>【交通政策局長】 今後の道の対応についてでございますが、道では、運転手確保に向け、交通事業者などと連携した合同就職相談会の全道各地での開催や、移住・観光施策と連携した道外PRなどに取り組むとともに、交通事業者が安定的に事業を継続でき、運転手の処遇改善につながるよう、国や市町村と協調したバス運行費の補助や、車両維持経費への臨時的な支援などに取り組んでいるところでございます。 道といたしましては、引き続き、国に対し、支援制度の充実・強化を働きかけるとともに、交通事業者や市町村など地域の関係者の方々とより一層連携・協力しながら、地域交通の確保に向けた取組を推進してまいります。</p> <p>【並行在来線担当課長】 函館線(長万部・小樽間)の協議状況についてでございますが、後志地域における新たな交通体系の検討にあたっては、並行在来線対策協議会后志ブロック会議での議論を踏まえ、関係するバス事業者の協力を得ながら、利用実態や地域の実情を考慮した具体的な運行ル</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>定はあるでしょうか。まだ予定がないということであればその理由についても伺います。</p> <p>2 バス転換方針の見直しについて</p> <p>今後の人口減少に加え運転免許証の保有率が若年層になるほど下がっている状況があります。さらに合同就職相談会の結果がなかなか採用につながらないということであり、次の後志ブロック会議の開催も予定が立たないということであれば、並行在来線のバス転換は見直すべきだというふうに考えますが、見解を伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>バス転換にあたっては、いわゆる路線バスであったりとか、高速バスであったりとか、そういったものを利用して、そして利便性を損なわないというのが前提だというふうに思います。その期待を裏切らないでいただきたいということを指摘をいたします。</p> <p>(四) 人材不足とライドシェアについて</p> <p>タクシー不足とライドシェアについてなのですが、運転手不足についてはバスだけではなく、タクシーも同様かと思えます。小樽市においてもコロナ禍のもと、流しでタクシーを拾うことが困難となりました。ドライバーが離職、新規採用が抑制されたところに観光客の増加が追い打ちをかけております。国はこの4月からタクシー事業の一環として一般のドライバーが自家用車を用いて、有償で旅客を輸送するいわゆるライドシェアを認める方向で検討を進める考えを明らかにしているところです。</p> <p>1 ライドシェアの認識について</p> <p>安全性など危惧される点が多いことから以下お聞きしたいのですが、ライドシェアには、運転者の健康管理や飲酒運転防止の対策、万一、事故が起きたときの事故対応や責任の所在、車両の管理とその責任の所在など多くの課題・問題があると思えます。加えて、ライドシェアの普及によって、タクシードライバーの収入が減り、離職を促すということも起きるのではないかと心配をしています。そうした懸念を払拭できないままライドシェアを導入するべきではないと考えますが、見解を伺います。</p>	<p>ートやダイヤなどに関し、関係者間の協議を進めており、現時点においては、関係するバス会社や沿線自治体と必要な調整などを継続しているところです。</p> <p>道といたしましては、次回ブロック会議の開催に向けて、関係者の方々と一層の連携を図りながら適時適切に対応してまいる考えでございます。</p> <p>【並行在来線担当課長】</p> <p>地域交通の確保についてであります。経営分離後の地域交通の確保方策の検討にあたっては、長大路線である線区の特徴や地域の実情などを十分考慮した上で、具体的な運行ルートやダイヤなどに関し、関係者間の協議を進めつつ、検討を深めているところです。</p> <p>道といたしましては、地域の皆様の暮らしや観光などで利用される方々にとって利便性が損なわれることのないよう、今後も引き続き、沿線自治体やバス事業者から丁寧にご意見を伺うとともに、後志地域における人流や交通環境の変化を捉えながら、安定的な交通体系の構築に向けて協議を進めてまいります。</p> <p>【地域交通担当課長】</p> <p>地域における移動手段の確保についてでございます。現在、国が具体の制度設計を進めておりますタクシー事業の一環として、一般のドライバーが自家用車を活用し、運送サービスの提供を可能とする新たな制度の活用に当たりましては、安全の確保や利用者保護を最優先に、地域や交通事業者の方々などのご理解とご協力を頂きながら取組を進める必要があると考えております。</p> <p>道といたしましては、引き続き、国の動向を注視しつつ、市町村やタクシー事業に携わる方々から丁寧にご意見を伺うなど関係者の皆様方と、より一層の連携を図りながら、地域交通の確保に向けた各般の施策に取り</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>今答弁で安全確保、利用者保護を最優先にと言っていたいただきましたが、課題・懸念が払拭されないまま取組を進めてはいけないと私は思います。</p> <p>2 タクシー不足への対応について</p> <p>そして、タクシー不足の主な理由は、やはりドライバー不足です。北海道としては、タクシードライバーに必要な普通2種免許取得の支援を事業者も含めて実施するとともに、従来のタクシー運転手の賃上げや処遇改善を行えるような支援を国に強く求める必要があると考えますが見解を伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>これまでの議論で、道内市町村にアンケートを取っているとのことも出てきておりました。課題が山積している制度ですから、拙速な導入は厳に慎むべきだということを指摘をしまして、次の質問に移ります。</p>	<p>組んでまいります。</p> <p>【交通政策局長】</p> <p>今後の対応についてでございますが、道では、これまで、運転手の確保に向けて、タクシー事業者などと連携した合同就職相談会の開催や移住・観光施策と連携した道外プロモーション活動を実施するとともに、タクシー事業者が安定的に事業を継続できるよう車両の維持経費を支援してきたところでありまして、また、国におきましても、今年度の補正予算において、タクシー運転手の育成費用の支援を行うなど取組の充実を図っているところでございます。</p> <p>道としては、全国知事会とも連携しながら、引き続き、国に対し、地域経済や住民生活を支える地域交通に係る必要な予算の確保や運転手不足の解消に向けた具体的な支援策が講じられることなどを求めるとともに、市町村や交通事業者の方々など地域の多様な主体の方々と連携しながら、地域交通の確保に向けて取り組んでまいります。</p>